

# 「シップ」と「シップ薬」のちがひ?

## 問題

温シップ薬を貼ると、患部を冷やす効果があるのに、なぜ温かい感じがするのでしょうか？

次のページの一一番下！

「シップ」と言われると、病院や薬局で手に入る貼り薬を連想されませんか？本来、布に水、お湯などを浸して患部を冷やす、または温める方法を「湿布」と言います。ところが、病院で処方される貼り薬はどうかというと、鎮痛剤は含まれてこないのですが、温シップ薬も冷シップ薬も、両方とも患部を冷やす効果があります。



## ■ シップ薬の種類別感覚と効果の差

	冷シップ薬	温シップ薬	冷シップ	温シップ
皮ふの感覚	冷たい	温かい	冷たい	温かい
患部の温度	低下	低下	低下	上昇

それでは、冷シップ薬と温シップ薬はどのように使い分けようか。結論としては、一般的な痛みに対しこれぞれよいのでしよう。では、冷感と温感のどちらが気持ち良いかで使い分けることが多いようです。筋肉痛やぎっくり腰など急性期の痛みには温シップ薬、肩こりや腰痛・神経痛など慢性的な痛みには冷シップ薬、その理由としては、「温かい感じ」「温かい感じ」によって痛みが紛らわす効果ができるからです。この効果が持続するからです。それが消炎鎮痛剤の効果もあります。

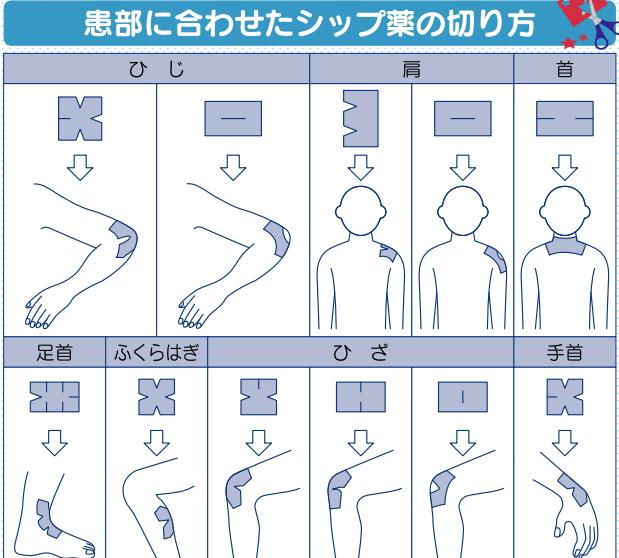


ただ、シップ薬を貼つても良くならない場合、慢性期の痛みに対する治療としては、蒸しタオル・ホツカイロ・湯たんぽなどで温める。急性期の痛みにはアイスノンや氷のうどで冷やす、といふ少しその原始的な方法をとるのも良いかもしれません。

シップ薬は、貼る場所に合わせた切り方をすることで患部にぴったり密着させることができます。患部の動きを妨げず痛みを和らげることができるので、参考にしてみて下さい。



## ちよつと役立つワンポイント



答え

温シップ薬に含まれるトウガラシ成分の刺激によって、皮ふの表面だけが温かいと感じるのです。